

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名( 三重県立鳥羽高等学校 )

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		・ これからの地域社会をささえる若者が育ち合う学校 ～子どもたちが地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りを持って成長する～
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	1. <b>地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りを持って成長する鳥羽高生</b> 2. 進路実現に向け、 <b>基礎的・総合的な学力</b> を身につけた鳥羽高生 3. 社会的・職業的自立に向け、必要な <b>規範意識と態度</b> を身につけた鳥羽高生 4. これからの社会で活躍するための「7つの力」を身につけた鳥羽高生 ① 行動力 ② 思考力 ③ コミュニケーション能力 ④ 創造力 ⑤ 表現力 ⑥ 自己肯定感 ⑦ 自己管理能力
	ありたい教職員の姿	1. 生徒が社会で活躍できるように、学校で必要な能力を育む。また、生徒が安全・安心して学校で過ごせるために、生徒の変化を見逃さず、その状況を情報共有できる組織的な教職員集団。 2. 授業を大切に、基礎学力の定着・向上に取り組むとともに、特色である地域学習や体験的活動を通して総合的な学力を育むことに前向きな教職員。 3. コンプライアンスを遵守し、地域社会の一員として豊かな社会性を身につけた、信頼される教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;生徒&gt; 高校生活の充実(進路実現のために必要な学力・部活動・仲間づくり)</p> <p>&lt;保護者等&gt; 希望進路の実現、社会で生きて行く力、安全で安心して学べる楽しい学校</p> <p>&lt;地域&gt; 魅力的な学校運営、観光・防災等の地域の活性化への貢献、生徒の健全育成</p> <p>&lt;企業・大学等の進路先&gt; 社会的・職業的自立に必要な生徒の学力と規範意識の醸成</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>&lt;保護者等&gt; 子どもの進路実現と安全・安心な環境</p> <p>&lt;中学校&gt; 生徒の進路保障、中高連携の推進</p> <p>&lt;地域&gt; 地域社会の活性化、 三重大学進学への地域枠活用</p> <p>&lt;企業・大学等&gt; 基礎学力の定着・向上、 基本的生活習慣の確立</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>&lt;保護者等&gt; 本校の教育方針への理解と生徒を育てるための連携・協力</p> <p>&lt;中学校&gt; 教育支援のための情報共有、 中高間連携の推進</p> <p>&lt;地域&gt; 地域学習活動の機会・素材・人材の提供、 生徒の健全育成活動での連携・協力</p> <p>&lt;企業・大学等&gt; キャリア教育や地域学習等の素材・人材・場の提供</p>

(3)前年度の学校関係者評価など		<p>1. 最近の生徒は、友人関係やSNSトラブルを繰り返し何度も指導を受ける 生徒がいる。現状から目を背けることなく、生徒自身で解決する力を付けて欲しい。</p> <p>2. 年々、地域での活動やイベントへ参加が増える状況下で、教員は疲弊感を抱えていないか。余裕が無くピリピリした教員の姿は、生徒に悪い印象を与えないか。また、いじめの発見や不登校生徒の対応、進路相談などの重要課題に十分対応できる余裕がなくならないか。教員の環境を整えることで、生徒も良い方向に進むことから、今後、さらなる教員減は、時間外労働やストレスが増えないか心配である。</p> <p>3. 鳥羽市内の出生率の減少により、15年後には鳥羽市内の中学生の人数は現在の半分になる。</p>
(4)現状と課題	教育活動	<p>1. 1年次の「起業体験プログラム」をはじめ2. 3年次の探究学習は、生徒の成長にとっても効果が高かった。また地域の学校等の交流は、生徒一人ひとりを輝かせ、生き生きとした姿が見られた。一方で教員がその準備・調整等に係る時間・負担が増加した。</p> <p>2. 基礎学力向上には一定の向上は見られるが、さらにより効率的で効果的な方法を考え、取組んでいきたい。その一端である ICT 活用を定着させたい。</p> <p>3. 特別指導は以前に比べて減少しているが、学習意欲の低下やコミュニケーション不足などによる生徒への支援、配慮が増加した。</p>
	学校運営等	<p>1. 学校の Web ページやインスタグラム、鳥羽市の広報の学校情報ページなど、認知度は上がっているが、さらなる情報発信の方法について、検討していきたい。</p> <p>2. 教員定数減少に伴い、学校全体での仕事量の削減や分掌内で仕事の割り振りを再検討する必要がある。</p>

### 3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p> <p>【カリキュラム・ポリシー】</p>	<p>1. 地域社会で貢献できる人材育成を目指し、体験的な教育活動を推進</p> <p>2. 生徒一人ひとりの進路実現を目指し、基礎・基本の定着を図る取組を推進</p> <p>3. 自己の生き方・在り方の認識を目指し、自他の理解や良好な人間関係を形成するための人権意識を高める学習活動を推進</p> <p>&lt;具体的な教育活動&gt;</p> <p>① 探究活動(産業社会と人間、総合的な探究の時間、鳥羽学)、系列授業、自由選択科目、就業体験実習(観光・福祉)等</p> <p>② 少人数教育、基礎学力診断、基礎力勉強会 等</p> <p>③ 人権 LHR、部活動、交流、講演 等</p>
学校運営等	<p>1. 学校の魅力発信のため、総合学科ならではの授業内容を中心に、生徒の活躍する姿を、学校外へ発信していくことで学校の認知度を高める。</p> <p>2. 一人ひとりの成長を支援する為にも、全教職員が子どもに向き合い、組織 の目標を共有することや組織のしくみを見直すことで、働きやすい職場づくりに取り組む。</p>

### 4 求める生徒像

<p>入学時に期待される生徒の姿</p> <p>【アドミッション・ポリシー】</p>	<p>1. 総合学科の学習内容に興味・関心があり、意欲を持って学習に取り組める生徒</p> <p>2. 学習を通して、積極的に進路実現を目指す生徒</p> <p>3. 部活動またはボランティア活動等について、積極的に活動する意欲のある生徒</p> <p>4. 規範意識や基本的生活習慣を身につけ、学校生活に積極的に取り組める生徒</p> <p>5. 将来、地域社会で活躍し、地域に貢献しようとする意欲のある生徒</p>
--	---



		<p>(生徒アンケート結果等より)</p> <p>②「積極的に授業に参加している。」と回答した生徒の割合94.4%</p> <p>③「この授業は実力アップに効果がある。」と回答した生徒の割合90.3%</p>	
<p>人権教育の推進</p>	<p>人権教育推進計画及び人権教育カリキュラムに基づき、計画的な人権学習を実施する</p> <p>(1)基本的人権の内容を理解し、人々の人権が侵害される具体的事例について学び、考える機会を持つ</p> <p>(2)自分自身を見つめ大切にできること、他者を尊重してすべての人権を守る意識と態度を育成する</p> <p>(3)スマホやタブレット等のインターネット上での人権侵害について加害者・被害者とならないための正しい知識を身に付け、適切な判断力を身に付ける</p> <p>【活動指標】</p> <p>①人権教育に関するアンケートを実施（6月）</p> <p>②公開人権LHRの実施(12月)</p> <p>③人権講演会を実施(12月)</p> <p>【成果指標】（生徒アンケート結果等より）</p> <p>①「命や人権を大切にする指導が適切に行われている。」と回答した生徒の割合90%以上</p>	<p>①の人権教育に関するアンケートを1年次対象に実施をして、これまでの人権教育学習についての把握ができた</p> <p>②については、12月に公開で人権LHRを行った。生徒も各学年のテーマに沿った学習ができた。授業担当者や参観者からの意見をもとに今後のLHR計画にも生かすことができた。</p> <p>③人権講演会を2回実施をした。「性について」と「戦後80年を考える」講演会を実施した。講演を聞くことにより、生徒ひとりひとりの人権感覚を養うことができた。成果指標については、おおむね達成できたと思われま</p>	<p>◎</p>

<p><b>生徒指導の充実</b></p>	<p>挨拶の推進。頭髪や服装等、基本的な生活習慣の確保や規範意識・コミュニケーション能力向上の指導を全職員で徹底し、自尊感情を育む声かけを行う。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>①挨拶・礼儀作法指導の継続  ②制服等の着こなし指導の継続  ③自分で解決していく力の育成(コミュニケーション能力・交通・防災・防犯)  ④制服改定の実施</p> <p><b>【成果指標】(生徒アンケート結果等より)</b></p> <p>①「基本的な学校生活習慣の定着に向けて、適切な指導が行われている。」と回答した生徒の割合85%以上  ②「健康と安全(交通・防災・防犯など)について、適切な指導が行われている。」と回答した生徒の割合85%以上</p>	<p>①挨拶・礼儀作法の指導については生活習慣から改善されない生徒がいる。ただし反応の悪い生徒は以前よりとても少なくなった。  ②総務主催の防災講話実施やコミュニケーション能力を高める講演会などの実施をした  ④制服は来年度より改定するようにした</p> <p><b>【成果指標】</b>  おおむね達成したと考えられます</p>	<p>◎</p>
<p><b>キャリア教育の充実</b></p>	<p>生徒一人ひとりが、自らの能力を発揮し、社会に貢献できる進路について、体験的な学習活動等を通して模索し、実現につなげていく。</p> <p>「産業社会と人間」、「社会体験実習」等の授業で1年次から系統的に地域の発展について探究活動を行い、それを通して自己のあり方や生き方について考え、主体的に豊かな社会を気づく意欲や態度の育成に取り組む。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>①各学年で企業、上級学校等と連携した進路ガイダンスを1回以上  ②全教員による実践的な面接指導を実施  ③外部講師や鳥羽市等と連携し、起業体験を軸にした産業・経済学習や地域課題解決学習に年間20時間を目標に実施</p> <p><b>【成果指標】(生徒アンケート結果等より)</b></p> <p>①「生徒の進路実現に向けて効果的な指導を行なっている。」と回答した生徒の割合が90%以上  ②「産業社会と人間」等の授業を通じて、進路や社会参画への意欲向上に繋がったと考える生徒が90%以上  ③「産業社会と人間」や総合的な探究の時間等を通して、自分の生き方が明確になってきた。」と回答した生徒の割合80%以上</p>	<p>3年次は、学校またはハローワークを通して就職を希望する者の内定率が100%になったが、自己開拓や家事手伝い等多様な進路への個別最適な指導を更に検討していくことが今後の課題である。</p> <p>また、進学は指定校等の推薦制度で5名が進学し、大学共通テスト利用者も2名と大学進学者を増やすことができた。しかし、家計の事情で入学辞退をする生徒がいたので、進学希望者への事前説明の内容等を再考することが課題である。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>①② 98%  ③97%</p> <p>今後はこれらの取組が結果に結びつくように系統的な学習に繋げていきたい。</p>	

### 改善課題

○基礎学力に課題を持つ本校では、10年余り少人数教育(習熟度別学習等)を取り入れ、基礎学力の向上と主体性を持った学習指導に取り組んできた。依然、課題解決には至っていないが、教諭の創意工夫が生徒に浸透して、主体的に授業を受ける生徒が増えてきた。基礎学力テストへの生徒の取組も徐々に向上している。しかしながら、学び直しの必要な生徒も多く再度学習方法を改善していくことが課題となる。

○人権教育について、これまでも公開LHRや講演会を通じて、生徒に他者理解を中心に学習してきたが、その時は理解を示すものの、学校生活の中で他者(友人や恋人)とのトラブルを抱える生徒は少なくない。引き続き人権教育を大切に考えていくことが必要である。

○生徒指導及び進路指導に関しては、概ね、落ち着いた学校生活を送り、自分の将来を見据えた行動が取れる生徒が増え、一定の成果を上げている。

#### (2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<p>(1)計画的に研究授業を実施する。</p> <p>(2)「信頼される学校であるための行動計画」の取組を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>①研究授業の実施:年2回</p> <p>②コンプライアンスミーティングの実施:年3回以上</p> <p>【成果指標】</p> <p>①生徒の授業満足度:80%以上</p>	<p>【活動指標】</p> <p>①研究授業の実施 2回</p> <p>②コンプライアンスミーティングの実施 3回</p> <p>【成果指標】</p> <p>①生徒の授業満足度 :89.8%</p>	※
組織力の向上・意欲の推進	<p>(1)情報共有や意見交換を円滑に行い、連携を深める。</p> <p>(2)業務の精選を行い、効率化を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <p>①オフサイトミーティングの実施</p> <p>②ICTを活用し、業務を簡素化する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①教員の満足度:80%以上</p>	<p>ICTを活用することで、文章や自習課題等を作成、試験の採点をすることで業務軽減に繋がった。</p> <p>【成果指標】</p> <p>県内の教職員を対象に行われたストレスチェックでは、ストレスのない第1位となった。仕事の量は多いが、全教職員が協力して仕事をこなし、助け合うことで一体感が生まれている。</p>	※

<p>情報提供による信頼の構築</p>	<p>(1)学校教育活動の情報発信と広報を拡充する</p> <p>【活動指標】 ①学校公式インスタの更新:年間 35 回以上 ②ホームページの更新:年間 12 回以上 ③学校情報を中学生へ配付:年間 3 回以上</p> <p>【成果指標】 ①インスタフォロワー数1000以上 (令和 7 年 3 月 31 日現在911)</p>	<p>【活動指標】 ①インスタ更新:78回 (~1/21) ②ホームページの更新 12 回 ③学校情報の配付は年間2回にとどまった。</p> <p>【成果指標】 ①インスタフォロワー数:1005人(~1/21)</p>	<p>※</p>
<p>保護者・地域住民との連携</p>	<p>(1)地域行事等への参画を実施する。</p> <p>【活動指標】 ①地域イベントに参加 ②地域の小中学校等との交流</p> <p>【成果指標】 ①地域との交流の機会:年10 回以上</p>	<p>【成果指標】 地域のイベントに 10 回以上参加した。また体育祭や文化祭でのかもめ幼稚園との交流や、鳥羽市内の小中学校などへの本校生徒による出前授業などを多数行った。</p>	<p>※</p>
<p>働きやすい職場環境作り</p>	<p>(1)業務の精選や改善を進める。 (2)総勤務時間の縮減に向け、年次有給休暇等を取得しやすい環境を作る。</p> <p>【活動指標】 ①定時退校日に退校できた教職員の割合:80%以上 ②予定通り休養日を実施できた部活動の割合:95%以上 ③放課後に開催した会議のうち 60 分以内に終了した会議の割合:90%以上</p> <p>【成果指標】 ①時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 :0 人 ②時間外在校等時間が 45 時間を超える教職員数の延べ人数:0 人 ③1 人当たりの月平均時間外在校等時間:30 時間以下 ④1 人当たりの年間休暇取得日数:10 日以上</p>	<p>【活動指標】 ①定時退校率 90% ②休養日を実施できた部活動の割合 100% ③60分以内に終了した会議の割合92%</p> <p>【成果指標】 ①360時間を超える時間外労働者数 3 人 ②月45時間を超える時間外労働者数の延べ数 22人 ③月平均時間外在校等時間16. 4時間 ④1人当たりの年間休暇取得日数16. 7日</p>	<p></p>

改善課題

○教員数が少なくなったことで、情報共有が行いやすく、同じ目標を持つ集団として、非常に風通しの良い職場となってきた。大変なところも多々見られるが、県のストレスチェックで低ストレス NO.1 の職場となり、教職員の良い雰囲気伺える。

○学校運営に際しては、クラス減に伴う教職員の定数減に伴い、業務はかなり多くなってきている。また、多様な生徒の悩みや不安に対し、丁寧に対応することも多くなっている。丁寧な対応は、生徒、保護者の安心につながるが、教職員の業務改善とは逆に進んでいく。

○魅力発信については取組内容すべてを行うことができなかった。

○時間外在校時間の超過者は、特定の部活動顧問であり、休日に試合が続くと過重労働になってしまう。引率の代替え教員を考えるが、ここにも教員数減の影響があり、交代要員がない状況になってきている。

## 6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○鳥羽市内の企業への就職増加に寄与している地域学習の継続的な取り組みは、生徒の力を伸ばす上で非常に効果的であり、今後も良い成果が期待される。今後は年間計画の中で中学校への情報発信や出前授業を計画的に実施し、さらに大人だけでなく小学生・中学生との交流を重視する視点が必要である。答志中学校などの商品開発活動と連携・協力し、地域全体で広げていく形を模索したい。また、アンケートの否定的な意見には積極的に対応し、小規模校の特徴を生かした生徒指導や学習指導の継続が求められる。</p> <p>○自己肯定感を高める施策として、自分自身の成長や変化を発信する活動を促進することが有効である。総合学科による体験活動の増加は良い成果を上げているが、以前のイメージが残る鳥羽市民は自ら情報を取りに行くことが少ないため、学校側から積極的に情報発信することが重要である。インスタグラム等のSNSだけでは情報が届きにくいいため、鳥羽マルシェなど目につきやすい場所へのペーパー設置など、工夫した情報発信が必要と考える。今後はこれらの改善課題を踏まえ、計画的かつ効果的な取り組みを進め、生徒の自己肯定感向上、進路実績の更なる向上を目指したい。</p>
----------------------------	--

## 7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○重点目標にもある基礎力の向上に際し、様々な取組をしているが、依然目標には達していない。見直しを図りながら、引き続き基礎力向上に取り組む。</p> <p>○地域との関わりの中で、幼少中との交流を行い一定の成果をあげられたが、特に小中に関して、自他のより良い成果を生むために、計画的な取組が必要と感じる。</p> <p>○鳥羽高校の地域での活動や学びが定着してきました。地域の方々からの期待もあり、一定の評価を得ています。しかしながら、関係者以外の一般の方にはまだまだ鳥羽高の学びや魅力を見ていただく機会が少なく、認識されていない部分を感じる。PR等、一般の地域の方々の目に触れるよう、発信方法の改善が必要である。</p> <p>○自他の理解や良好な人間関係を形成するため、就業体験学習や人権LHRの充実を図ってきたが、依然、人権意識の目覚ましい向上まで至っていない。引き続き、自己肯定感の向上を目指し、様々な主体的な取組に挑戦することで自己有用感を獲得し、個々の進路実現につなげていきたい。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○引き続き、来年度の教員数や教育課程を見据え、教職員のワークライフバランスの充実が実感できるよう、分掌・担任業務、部活動、学校行事等の精選に努める。</p> <p>○現在の教員間の連携は、非常に長けており、また、そのチームとしての対応に、教職員自身が、安心して働くことのできる職場として認識できていると感じる。引き続き縦横の連携で協力し業務にあたることのできるように、今後も心がけていきたい。</p> <p>○情報提供、魅力発信について、高校に興味関心のある層の方々には、一定の評価を得てきている。地域において意識外の一般の方々も含め、アピールできるような鳥羽高としての発信方法を確立していきたい。</p>